

日本語教育学I LA

13643

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造、音声、語彙・意味についての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|----------------|-------------------------|
| | オリエンテーション, 言語学 | 比較言語学 |
| | 言語学 | ソシール言語学 |
| | 言語学 | 形態論 |
| | 言語学 | 統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法 |
| | 言語学 | 生成文法 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学, 意味論, 古典言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 日本語文法 | 品詞, 活用, 日本語学史 |
| | 日本語文法 | 動詞の種類 |
| | 日本語文法 | ヴォイス, テンス, アスペクト, モダリティ |
| | 日本語文法 | 指示詞, 「は」と「が」 |
| | 日本語の音声 | 音素, アクセント, イントネーション |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート試験 | 50 % | |
| 日常点・その他 | 50 % | |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学I LB

13681

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造、音声、語彙・意味についての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|----------------|-------------------------|
| | オリエンテーション, 言語学 | 比較言語学 |
| | 言語学 | ソシール言語学 |
| | 言語学 | 形態論 |
| | 言語学 | 統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法 |
| | 言語学 | 生成文法 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学, 意味論, 古典言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 言語学 | 認知言語学 |
| | 日本語文法 | 品詞, 活用, 日本語学史 |
| | 日本語文法 | 動詞の種類 |
| | 日本語文法 | ヴォイス, テンス, アスペクト, モダリティ |
| | 日本語文法 | 指示詞, 「は」と「が」 |
| | 日本語の音声 | 音素, アクセント, イントネーション |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート試験 | 50 % | |
| 日常点・その他 | 50 % | |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学II LA

16028

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

多様な日本語教育及び学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|---------------|-----------------------------------|
| | オリエンテーション、語用論 | 語用論、発話行為、協調の原理 |
| | 語用論 | ポライトネス、プラグマティック・トランスファー |
| | 語用論 | コンテキスト、非言語コミュニケーション、アコモデーション理論 |
| | 語用論 | コミュニケーション・スキル、アサーティブ・コミュニケーション |
| | 社会言語学 | 社会言語学、言語接触、ビジン・クリオール、バルカン言語連合、外来語 |
| | 第二言語習得 | 対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究 |
| | 第二言語習得 | バイリンガリズム、イメージン・プログラム |
| | 第二言語習得 | 年少者教育、学習者のストラテジー |
| | 方言と共通語 | ネオ方言、コード・スイッチング、ウチナーヤマトウグチ |
| | 異文化コミュニケーション | 異文化適応、リエントリー・クライシス |
| | 異文化コミュニケーション | 異文化トレーニング |
| | 異文化トレーニング | 異文化トレーニングの形式・目的・内容 |
| | 音声教育 | 音声教育の問題、教材、教授法 |
| | アクション・リサーチ | アクション・リサーチ、自己研修型教師 |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験(筆記) | 50 % | |
| 日常点・その他 | 50 % | |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

日本語教育学II LB

16053

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

多様な日本語教育及び学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|---------------|-----------------------------------|
| | オリエンテーション、語用論 | 語用論、発話行為、協調の原理 |
| | 語用論 | ポライトネス、プラグマティック・トランスファー |
| | 語用論 | コンテキスト、非言語コミュニケーション、アコモデーション理論 |
| | 語用論 | コミュニケーション・スキル、アサーティブ・コミュニケーション |
| | 社会言語学 | 社会言語学、言語接触、ビジン・クリオール、バルカン言語連合、外来語 |
| | 第二言語習得 | 対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究 |
| | 第二言語習得 | バイリンガリズム、イメージン・プログラム |
| | 第二言語習得 | 年少者教育、学習者のストラテジー |
| | 方言と共通語 | ネオ方言、コード・スイッチング、ウチナーヤマトウグチ |
| | 異文化コミュニケーション | 異文化適応、リエントリー・クライシス |
| | 異文化コミュニケーション | 異文化トレーニング |
| | 異文化コミュニケーション | 異文化トレーニングの形式・目的・内容 |
| | 音声教育 | 音声教育の問題、教材、教授法 |
| | アクション・リサーチ | アクション・リサーチ、自己研修型教師 |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験(筆記) | 50 % | |
| 日常点・その他 | 50 % | |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教授法演習Ⅰ

14681

担当者名 / Instructor 北出 慶子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学ⅠⅡ、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要となる実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。また、初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。さらに、評価の意義・目的、方法、種類についても考える。

後期は、前期に学んだ日本語教授法の基礎知識をもとに、実際にどのように授業を組み立てるのかを学ぶ。シラバス作成、到達目標設定、学習項目設定、教案作成などのコースデザイン方法を学び、初級学習者対象の設定で模擬授業ならびに授業分析を行う。さらに模擬授業の反省点から教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。
- 2) 日本語教育における4技能とその指導法について学ぶ。
- 3) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について学ぶ。
- 4) 日本語教育における評価の意義・目的、方法、種類について知る。

後期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と方法について知る。(コースデザイン、到達目標設定、学習項目設定)
- 2) 実際に教壇に立って教えるための授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選択、模擬授業、反省)
- 3) 以上の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ、日本語教育学Ⅱ、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|--|--|
| 1 | オリエンテーション(授業内容説明)、自己信念チェック (日本語の教え方に関する考え方) | |
| 2 | 教授法Ⅰ | (歴史の変遷、背景理論、直説法、オーディオリンガル・メソッド、コミュニカティブ・アプローチ) |
| 3 | 教授法Ⅱ | コミュニティ・ランゲージ・ラーニング、TPR、ナチュラル・アプローチ |
| 4 | 教材選択、教材分析の視点 | |
| 5 | 教室活動の流れ、学習活動1:会話能力の指導(ドリルとその種類) | |
| 6 | コミュニカティブ・アプローチを考慮した教室活動 | |
| 7 | 学習活動2:発音指導、リスニングの指導 | |
| 8 | 学習活動3:語彙、表記(ひらがな、カタカナ、漢字)指導 | |
| 9 | 学習活動4:読み・書きの指導 | |
| 10 | 教材分析発表 | |
| 11 | 教材分析発表 | |
| 12 | 教材分析発表 | |
| 13 | 評価(意義と目的、方法と種類) | |
| 14 | 学期末課題 個別指導 | |
| 15 | 学期末課題 個別指導 | |
| 16 | オリエンテーション(授業内容説明) | |
| 17 | コースデザイン | |
| 18 | 到達目標設定、学習項目設定、1コマの授業の流れ | |
| 19 | 授業の組み立て方(教案作成、導入と提示方法、学習活動) | |
| 20 | 授業の組み立て方(教材の選択、教師の話し方) | |
| 21 | 授業組み立ての留意点(フィードバックの方法)、中上級の指導 | |
| 22 | ゲストスピーカー(海外の日本語教育の実状について) | |
| 23 | 教案個別指導 | |

| | |
|----|----------|
| 24 | 文化的側面の指導 |
| 25 | 模擬授業と反省 |
| 26 | 模擬授業と反省 |
| 27 | 模擬授業と反省 |
| 28 | 模擬授業と反省 |
| 29 | 模擬授業と反省 |
| 30 | 模擬授業と反省 |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への積極的参加が望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験(筆記) | 0 % | なし |
| レポート試験 | 30 % | レポート |
| 最終講義日試験 | 0 % | なし |
| 日常点・その他 | 70 % | 出席と授業参加度、課題、教材分析発表、模擬授業、など。 |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------|--|
| よくわかる教授法 | 小林 ミナ / アルク出版 / / |
| 初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方 | 小島 聡子 / アルク出版 / / |

参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------|--|
| 新・はじめての日本語教育・2 日本語教授法入門 | ASK / アルク / / |
| 日本語教授法 | 監修 佐治圭三・真田信治 / 東京法令出版 / / |
| 成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上) | 川口義一 & 横溝紳一郎 / ひつじ書房 / / |
| 実践にほんご指導見なおし本 語彙と文法指導編 | 編著 K.A.I.T / アルク / / |
| 日本語の教え方ABC | 寺田和子 他 / アルク / / |
| 日本語教師の実践力 | 全国日本語教師養成協議会 / 全国日本語教師養成協議会 / / |
| 日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ | 河野俊之・小河原義朗 / アルク / / |

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

留学生との交流BBS <http://kitade.sunnyday.jp/classes/>
 日本語学習のためのリンク集 <http://www.ritsumeimei.ac.jp/~kitade/links.htm>

その他 / Others

日本語教授法演習 LB

16446

担当者名 / Instructor 遠山 千佳

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学ⅠⅡ、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。また、初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。さらに、評価の意義・目的、方法、種類についても考える。

後期は、前期に学んだ日本語教授法の基礎知識をもとに、実際にどのように授業を組み立てるのかを学ぶ。シラバス作成、到達目標設定、学習項目設定、教案作成などのコースデザイン方法を学び、初級学習者対象の設定で模擬授業ならびに授業分析を行う。さらに模擬授業の反省点から教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。
- 2) 日本語教育における4技能とその指導法について学ぶ。
- 3) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について学ぶ。
- 4) 日本語教育における評価の意義・目的、方法、種類について知る。

後期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と方法について知る。(コースデザイン、到達目標設定、学習項目設定)
- 2) 実際に教壇に立って教えるための授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選択、模擬授業、反省)
- 3) 以上の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ、日本語教育学Ⅱ、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|--|--|
| 1 | オリエンテーション(授業内容説明)、自己信念チェック (日本語の教え方に関する考え方) | |
| 2 | 教授法Ⅰ | (歴史の変遷、背景理論、直説法、オーディオリンガル・メソッド、コミュニカティブ・アプローチ) |
| 3 | 教授法Ⅱ | コミュニティ・ランゲージ・ラーニング、TPR、ナチュラル・アプローチ |
| 4 | 教材選択、教材分析の視点 | |
| 5 | 教室活動の流れ、学習活動1:会話能力の指導(ドリルとその種類) | |
| 6 | コミュニカティブ・アプローチを考慮した教室活動 | |
| 7 | 学習活動2:発音指導、リスニングの指導 | |
| 8 | 学習活動3:語彙、表記(ひらがな、カタカナ、漢字)指導 | |
| 9 | 学習活動4:読み・書きの指導 | |
| 10 | 教材分析発表 | |
| 11 | 教材分析発表 | |
| 12 | 教材分析発表 | |
| 13 | 評価(意義と目的、方法と種類) | |
| 14 | 学期末課題 個別指導 | |
| 15 | 学期末課題 個別指導 | |
| 16 | オリエンテーション(授業内容説明) | |
| 17 | コースデザイン | |
| 18 | 到達目標設定、学習項目設定、1コマの授業の流れ | |
| 19 | 授業の組み立て方(教案作成、導入と提示方法、学習活動) | |
| 20 | 授業の組み立て方(教材の選択、教師の話し方) | |
| 21 | 授業組み立ての留意点(フィードバックの方法)、中上級の指導 | |
| 22 | ゲストスピーカー(海外の日本語教育の実状について) | |
| 23 | 教案個別指導 | |

| | |
|----|----------|
| 24 | 文化的側面の指導 |
| 25 | 模擬授業と反省 |
| 26 | 模擬授業と反省 |
| 27 | 模擬授業と反省 |
| 28 | 模擬授業と反省 |
| 29 | 模擬授業と反省 |
| 30 | 模擬授業と反省 |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への積極的参加が望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート試験 | 30 % | レポート |
| 日常点・その他 | 70 % | 出席と授業参加度、課題、教材分析発表、模擬授業、など。 |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------|--|
| よくわかる教授法 | 小林 ミナ / アルク出版 / / |
| 初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方 | 小島 聡子 / アルク出版 / / |

参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------|--|
| 新・はじめての日本語教育・2 日本語教授法入門 | ASK / アルク / / |
| 日本語教授法 | 監修 佐治圭三・真田信治 / 東京法令出版 / / |
| 成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上) | 川口義一 & 横溝紳一郎 / ひつじ書房 / / |
| 実践にほんご指導見なおし本 語彙と文法指導編 | 編著 K.A.I.T / アルク / / |
| 日本語の教え方ABC | 寺田和子 他 / アルク / / |

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

留学生との交流BBS <http://kitade.sunnyday.jp/trs/>
 日本語学習のためのリンク集 <http://www.ritsumeimei.ac.jp/~kitade/links.htm>

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 LA

14637

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。

まず、音声学について[IPA]と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。文法・構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。

日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学術的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長も図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修しておくことが望ましい。2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------|---|
| 1 | 1 ガイダンス(コース・デザイン) ニーズ調査 | |
| 2 | ニーズ抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正 | 音声・音韻論 1 [IPA]と50音図 |
| 3 | 音声・音韻論 2 拍とシラブル | タスクの宿題 |
| 4 | 音声・音韻論 3 アクセントとイントネーションとプロミネンス | 客観テスト「音声・音韻論」 |
| 5 | タスク合評会 | |
| 6 | 文字・語彙論 1 日本語の文字、仮名と漢字と外来語 | |
| 7 | 文字・語彙論 2 語の構成 | タスクの宿題 |
| 8 | 文字・語彙論 3 語の意味 | 客観テスト「文字語彙論」 |
| 9 | タスク合評会 | |
| 10 | 文法・構文論 1 日本語構文の特徴 | |
| 11 | 文法・構文論 2 テンスとアスペクト | タスクの宿題 |
| 12 | 文法・構文論 3 ムードとヴォイス | 客観テスト「文法・構文論」 |
| 13 | タスク合評会 | |
| 14 | 前期試験 1 | 客観テスト |
| 15 | 前期試験 2 | インタビュー：この時、前期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|--|
| 日常点・その他 | 100 % | 客観テスト(真偽法・補充法・選択法・再生法)+主観テスト(タスク・レポート・合評会クラス評価)で評価 |

前期に実施する月一度の客観テストを利用し、後期の評価法授業を行なう。内容は、クラスの標準偏差と各自の偏差値を出す練習をしながら、日本語教授法の「評価の仕方」を学ぶ。

一ヶ月に一度、タスクの宿題が出る。この課題レポートが文集になり、合評会が行なわれる。相互評価を通じて、自己の客観的評価を知る機会とし、またクラスでのインターアクション・形成の実際を学ぶ。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|---|
| よくわかる教授法 | 小林ミナ / アルク / 4 - 7574 - 0521 - 9 / 「通過点としての教科書」なので購入する必要はない |

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 LB

14680

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。後期では方法について学ぶ。まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長も図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修しておくことが望ましい。2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|---|------------------------------------|
| 1 | 後期セメスターのガイダンス | 日本語教授法概観 |
| 2 | Natural Method, Direct Method, Oral Method, Army Method, Phonetic Method, Natural Approach, Audio - Lingual Approach, Total Physical Response Approach, | |
| 3 | 教授法に関する過去問題の実施 | 教授法に関する過去問題の解説 |
| 4 | タスク 1 | |
| 5 | コース・デザインの第一段階 | 教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具 |
| 6 | コース・デザインの第二段階 | シラバスとカリキュラム |
| 7 | コース・デザインの第三段階 | 教育の実施—接続助詞をタスクとして |
| 8 | タスク 2 | |
| 9 | 日本語テキストの実例 | 練習の種類 : デイバート法 ロールプレイ法 プロジェクト・ワーク法 |
| 10 | 日本語テキストの実例 | ゲームを使った教授法 : 歌を使って 1 |
| 11 | 日本語テキストの実例 | ゲームを使った教授法 : 歌を使って 2 |
| 12 | タスク 3 | |
| 13 | 評価法 : 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の扱いとフィードバック | テストの種類 |
| 14 | 評価法 : | 評価の誤差 |
| 15 | 後期試験 | |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点・その他 | 100 % | 学習到達度を、客観テスト+主観テストで評価 |

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語史 L

13682

担当者名 / Instructor 彦坂 佳直

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・現代日本語を理解する上で必要な日本語の過去の様相について、その主要点を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・イノベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------|----------------------------|
| 1 | 現代日本語の源流としての日本語の歴史 | ソール、共時態と通時態、過去の遺産としての現代日本語 |
| 2 | 音韻の概説1 | 50音図、音声と音韻、音韻の種類の変化 |
| 3 | 音韻の概説2 | アクセントの体系、型の対応 |
| 4 | 語彙の概説1 | 語彙の量的側面、語種、語構成、 |
| 5 | 語彙の概説2 | 語彙の体系、意味、意味変化、 |
| 6 | 文法概説1 | 活用の仕組み、活用体系の変化 |
| 7-8 | 文法概説2 | 助動詞の変化 分析的傾向へ |
| 9-10 | 文法概説3 | 係り結びの変化、呼応の関係の変化 |
| 11-12 | 文法概説4 | 主語と助詞、格助詞、接続助詞の変化 |
| 13-14 | 標準語と方言概説 | 標準語と方言、位相 |
| 15 | テスト | |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・授業はテキストの解説に、プリントを用意してその内容を補う形で進める。
- ・時に宿題を課すこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|---|
| レポート試験 | 25 % | 授業の要点を整理したもの、また軽い宿題がひとつとおりまとまったものであること。 |
| 最終講義日試験 | 50 % | 授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。 |
| 日常点・その他 | 25 % | 出席と応答の様子 |

クラスは2クラスある。
2クラスとも内容は同じである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・単なる知識としてでなく、身近な問題につながるものと捉えてほしい。

教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|--|
| ケーススタディ日本語の歴史 | 半沢幹一他 / おうふう / 4-273-03267-8 / 常時使用する |
| 教科書として毎時間使用する。 | |

参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|--|
| 『講座日本語と日本語教育』 | / 明治書院 / / |
| 『講座日本語学』 | / 明治書院 / / |

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

独立法人-国立国語研究所 <http://www.kokken.go.jp/>

その他 / Others

日本語史 LB

16548

担当者名 / Instructor 彦坂 佳直

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

・日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代日本語を理解する上で必要な日本語の過去の様相について、その主要点を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・イノベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------|----------------------------|
| 1 | 現代日本語の源流としての日本語の歴史 | ソール、共時態と通時態、過去の遺産としての現代日本語 |
| 2 | 音韻の概説1 | 50音図、音声と音韻、音韻の種類の変化 |
| 3 | 音韻の概説2 | アクセントの体系、型の対応 |
| 4 | 語彙の概説1 | 語彙の量的側面、語種、語構成、 |
| 5 | 語彙の概説2 | 語彙の体系、意味、意味変化、 |
| 6 | 文法概説1 | 活用の仕組み、活用体系の変化 |
| 7-8 | 文法概説2 | 助動詞の変化 分析的傾向へ |
| 9-10 | 文法概説3 | 係り結びの変化、呼応の関係の変化 |
| 11-12 | 文法概説4 | 主語と助詞、格助詞、接続助詞の変化 |
| 13-14 | 標準語と方言概説 | 標準語と方言、位相 |
| 15 | テスト | |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

・授業はテキストの解説に、プリントを用意してその内容を補う形で進める。
・時に宿題を課すこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|---|
| レポート試験 | 25 % | 授業の要点を整理したもの、また軽い宿題がひとつとおりまとまったものであること。 |
| 最終講義日試験 | 50 % | 授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。 |
| 日常点・その他 | 25 % | 出席と応答の様子 |

クラスは2クラスある。
2クラスとも内容は同じである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・単なる知識としてでなく、身近な問題につながるものと捉えてほしい。

教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|--|
| ケーススタディ日本語の歴史 | 半沢幹一他 / おうふう / 4-273-03267-8 / 常時使用する |
| 教科書として毎時間使用する。 | |

参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|--|
| 『講座日本語と日本語教育』 | / 明治書院 / / |
| 『講座日本語学』 | / 明治書院 / / |

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

独立法人-国立国語研究所 <http://www.kokken.go.jp/>

その他 / Others